

表紙作品解説



秋虫瓜蔬図 一幅 跡見花蹊筆

明治15年(1882) 146.0×87.0cm

絹本着色 跡見学園女子大学花蹊記念資料館蔵

菜園の情景を円山派の画法で描いた作品である。登場する野菜類は、糸瓜、<sup>へちま</sup>南瓜、<sup>かぼちゃ</sup>紫茄、<sup>なすび</sup>鬼灯、<sup>ほおずき</sup>とうきび、<sup>とうきび</sup>こちよう、<sup>こちよう</sup>ひぐらし、<sup>ひぐらし</sup>きりぎりす、<sup>きりぎりす</sup>くつむし、<sup>くつむし</sup>とんぼ、<sup>とんぼ</sup>かたつむり、<sup>かたつむり</sup>かまきり、<sup>かまきり</sup>寒蝉、<sup>かんせん</sup>胡蝶、<sup>こてんとう</sup>絡緯、<sup>らくい</sup>蜻蛉、<sup>せうりやう</sup>蝸牛、<sup>かたつむり</sup>蟻、<sup>あま</sup>蚊などの秋の虫とともに描かれている。自画賛によれば、この絵を見た客人が、「どのような手本を見てこれを描いたのか、明のものか、清のものか、それともわが国の元禄時代の作家のものか」と尋ねたところ、花蹊は笑いながら菜園を指差し、「私の手本はここにある」と答えたという。この作品は農商務省主催第一回内国絵画共進会に出品された「野蔬類」と同一作品と考えられ、画家としての技量を感じさせる力作である。

写真提供：跡見学園女子大学花蹊記念資料館  
文：学芸員 渡辺 泉